

令和4年度・友の会フォーラム

「遠き山から送り届けられた星のカケラ」

開催のご案内



今回のフォーラムは、2018年文化庁で「日本遺産」として認定された八ヶ岳の“日本最古のブランド”である「黒曜石」文化の紹介です。

旧石器時代、縄文時代、黒曜石は矢じりのなどの材料として貴重なもので、特に信州産は品質の良さから長野県は勿論、関東、中部地方を中心に遠くは北は青森県、西は奈良県まで運ばれ使用されています。大変興味あるテーマです。皆様、奮ってご参加ください。

記

講師：黒曜石体験ミュージアム学芸員 大竹 幸恵 氏

※裏面をご参照ください

日時：令和4年11月13日（日）13時～14時40分

受付開始：12時45分

会場：千葉市生涯学習センター（B1 小ホール）

定員：80名（但し会員優先・先着順）

参加費：無 料

主催：NPO 法人加曾利貝塚博物館友の会

後援：千葉市立加曾利貝塚博物館

協賛：(株)高品ハウジング 桜木東部自治会 千葉東ライオンズクラブ
(学法)千葉文化幼稚園 晴山会桜ヶ丘晴山苑

連絡先：NPO 法人加曾利貝塚博物館（担当：久保）

電話：090-4547-1608

e-Mail：kasoritomo@gmail.com

「遠き山から送り届けられた星のカケラ」

長野県長和町黒耀石体験ミュージアム

学芸員 大竹幸恵

子どもの頃に土器や石器を拾ったことがあるという経験をお持ちの方も多いのではないだろうか。日の光を浴びてキラリと輝く黒耀石は、誰の目にも発見しやすく、身近にありながら謎の多い昔の歴史を学び始めた子どもたちには、人気の高い考古学的な資料である。

黒耀石の産地は、その場所が限られている。しかし、「交通機関や輸送手段がなかった遠い昔、なぜ、遠い山にしかないはずの黒耀石がこの地にたどり着いたのだろうか？」今も、黒耀石の産地に近い黒耀石体験ミュージアムには、そんな謎の答えを求めてやってくる子どもたちが多い。

黒耀石体験ミュージアムの裏山に、黒耀石の別称である「星糞峠」という地名が残る黒耀石の産出地がある。平成3年にその一帯で縄文人が地下資源として黒耀石を採掘していた鉱山のような遺跡が発見され、30年に及ぶ継続的な発掘調査が行われてきた。また、この原産地の周辺には、旧石器時代から石器の原料として黒耀石を利用し、全国各地へと流通させる役割を担っていた石器工場のような遺跡群が密集している。

産地の限られた特定石材は、どのような仕組みで、そして、どのような理由で全国へと持ち運ばれていたのだろうか。旧石器時代の石器生産工場から、縄文時代の黒耀石鉱山へと、遺跡に刻まれた3万年の歴史を辿ってみよう。

講師プロフィール

大竹幸恵（おおたけ さちえ） / 黒耀石体験ミュージアム学芸員

明治大学大学院文学研究科博士前期課程修了。

長和町教育委員会文化財係長、黒耀石体験ミュージアム学芸員。茨城県出身。子どもの頃に拾った黒耀石と藤森栄一著「土器と石器のはなし」がきっかけで考古学へ進む。長和町は黒耀石の産地として憧れの地で学生の頃より調査に参加。国史跡「星糞峠黒耀石原産地遺跡」で縄文時代の継続的な学術調査が続けられている。2017年イコモス賞受賞。

採掘跡群は2001年1月、「星糞峠黒耀石原産地遺跡」として国の史跡に指定され、峠のふもとに長和町立「ほしくずの里たかやま黒耀石体験ミュージアム」が設立され、大竹氏はそこを拠点に、研究をわかりやすく伝える展示活動に力を注ぐとともに、多種多様な体験学習や独創的なイベント、「黒耀石のふるさと祭り」などを推進している。

黒耀石体験ミュージアムにおける展示解説と体験学習のユニークな取り組みは全国に知られ、また外国からも注目され、韓国の全谷(チョンゴク)先史博物館、台湾の十三行(シーサンハン)博物館でも大竹氏によって紹介された。

体験ミュージアムにおける多様な取り組みには多くのリピーターがあり、山間部にあるミュージアムとしては破格の集客力を誇っている。

